

令和 5 年 6 月 15 日現在

機関番号：13401

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K17313

研究課題名（和文）過食症への遠隔認知行動療法の有効性及び費用対効果の検討

研究課題名（英文）Examination of effectiveness and cost-effectiveness of Internet based cognitive behavioral therapy for Bulimia Nervosa

研究代表者

濱谷 沙世（Hamatani, Sayo）

福井大学・子どものこころの発達研究センター・特命助教

研究者番号：30771414

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：過食症の患者を対象に、遠隔での認知行動療法を開発し、その実用可能性と有効性を検証することを目的とした。まず、神経性過食症と過食性障害の計8名に対して、テレビ電話による認知行動療法を実施した結果、安全に実施可能で介入後には主要症状に改善が見られた。次に、文化差を考慮した日本人の過食症に対するインターネット認知行動療法プログラムを開発した。摂食障害患者と専門家の計12名に、このプログラムの文化適応評価について調査した結果、日本文化に非常によく適合していることを明らかにした。現在、このプログラムを用いた臨床試験を実施中である。今後も継続し、神経性過食症に対するICBTの有用性・有効性を検証する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

テレビ電話の認知行動療法でも、過食症の方に十分に安全で改善効果が見込まれることが示された。また、開発したICBTプログラムが実用可能になることで、医療コストの削減や、いつでも、どこでも治療を受けられる遠隔の社会基盤構築に貢献する。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to develop an internet-based cognitive-behavioural therapy for patients with bulimia and to verify its feasibility and effectiveness. First, cognitive-behavioural therapy via videophone was conducted with a total of 8 patients with bulimia nervosa and binge eating disorder. The results showed that the vCBT could be safely implemented and showed improvement in major symptoms after the intervention. Second, an Internet cognitive-behavioural therapy program for bulimia nervosa in Japanese was developed to account for cultural differences. A total of 12 patients with eating disorders and professionals were surveyed to evaluate the cultural adaptation of this program, which was found to be very well adapted to Japanese culture. A clinical trial using this program is currently underway. We will continue to examine the usefulness and effectiveness of ICBT for bulimia nervosa.

研究分野：摂食障害

キーワード：神経性過食症 摂食障害 遠隔認知行動療法 インターネット認知行動療法 ICBT 認知行動療法 遠隔医療

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

摂食障害の中でも過食症に対しては、認知行動療法(Cognitive-Behavioral Therapy: CBT)が有効であることが広く知られており、CBTは諸外国のガイドラインでは、治療の第一選択肢に位置付けられている(NICE, 2004)。しかし、過食症の患者はしばしば抑うつ症状や不安症状のため、自宅にひきこもるため通院型外来診療では継続的治療提供が難しい。さらに、治療機関の都市偏在の課題もあり、仮に、患者が治療への動機付けが高く、心身ともに継続通院できる状態でも、地方の患者は多大な移動時間や多額の交通費を負担する必要がある。

2. 研究の目的

本研究は、日本人を対象に、過食症への遠隔認知行動療法の実用可能性および有効性を検証することを目的とした。

- (1) 過食症に対するテレビ電話認知行動療法の実用可能性の検証
- (2) 低強度治療である認知行動療法の Web プログラム開発
- (3) 開発したプログラムの文化的適応の評価

3. 研究の方法

- (1) 過食症に対するテレビ電話認知行動療法の実用可能性の検証

本研究は、非対照試験であり、神経性過食症、過食性障害の16歳以上65歳までの女性を対象とした。Cisco WebEx という Web 会議システムを利用し、テレビ電話 CBT を1回50分、週1回で16回の介入を行った。有効性・安全性評価のための主要評価項目に関する検査及び副次評価項目に関する検査は、介入開始日、介入中期、介入終了後に実施しており、症状の主要評価として、摂食障害評価尺度(Eating Disorder Examination (EDE))における28日間の客観的過食エピソードの回数・排出行動エピソードの回数・客観的過食エピソードと排出行動エピソードの合計回数とした。

- (2) 低強度治療である Web プログラムの開発

当該分野の最も進んでいる国の一つであるスウェーデンに渡り、国際共同研究によって、日本語版の過食症に対する認知行動療法 Web プログラムを開発した。

- (3) 開発したプログラムの文化的適応の評価

文化的関連性質問票 (CRQ) を使用して、混合方法アプローチを使用して、開発した Web プログラムのプロトタイプの文化的適応を評価した。神経性過食症の女性5名と臨床医7名が CRQ を使用してインタビューを受けた。

4. 研究成果

(1) 過食症に対するテレビ電話認知行動療法の実用可能性の検証

神経性過食症もしくは過食性障害を持つ日本人の女性患者7名を対象に、テレビ電話 CBT の臨床試験を実施した結果、治療前後で4週間の過食と排出行動の合計頻度が、47.60回から13.60回までに減少した。また、治療同盟尺度である WAI-SF の得点は治療前後で64.8から66.0であり、一貫して高いままであった。テレビ電話 CBT は対面と同様に、治療関係を構築でき、本邦においてもテレビ電話 CBT が安全に有効に活用できる可能性を示唆した。本研究成果は、JMIR Formative Research に掲載された。

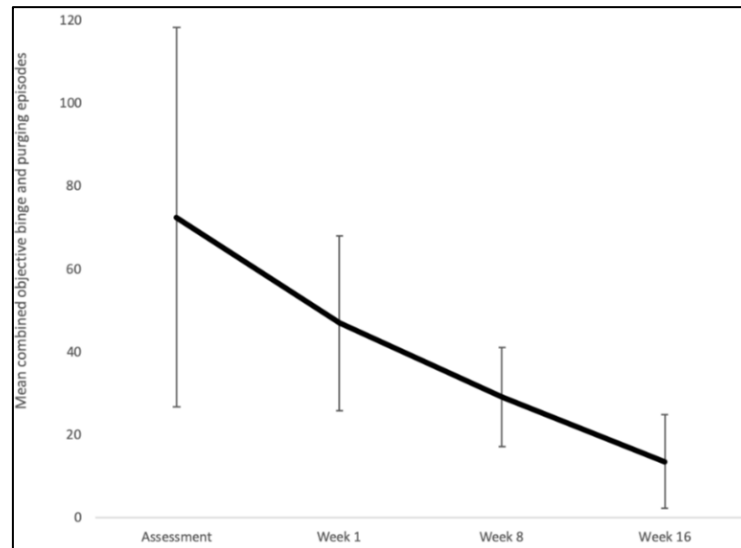


図1. 治療前後における過食と排出行動の頻度の変化

(2) 低強度治療である認知行動療法の Web プログラム開発

文献レビューを行った上で、日本の文化を考慮してプログラムを開発した。具体的には、アセスメント、心理教育、リラクゼーションとマインドフルネス瞑想、メタ認知トレーニング、注意トレーニングとボディイメージの修正、行動実験、曝露反応妨害法などを含むモジュールの構成を12モジュールに改良し、Webプログラムの構築を行った。



図2 開発した Web プログラム

(3) 開発したプログラムの文化的適応の評価

本プログラムは、日本独自の食文化を含んだプログラム内容であり、1つのモジュールが約 10～20 分で完了するように設計した。CRQ の得点は、神経性過食症の女性患者で 5 点満点中 4.60 点～4.80 点、臨床家では 4.43 点～4.86 点だった。また、インタビュー調査による研究協力者からの主なフィードバックは、一部の文章がわかりにくいというものであったため、専門用語の一部を一般的な用語に変更した。本研究成果は、*Frontiers in Psychiatry* に掲載された。現在、本プログラムの有効性を検証するために、多機関ランダム化比較試験を実施中であり、今後も継続して行う。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計29件（うち査読付論文 27件／うち国際共著 2件／うちオープンアクセス 21件）

1. 著者名 Hiraoka Daiki, Makita Kai, Hamatani Sayo, Tomoda Akemi, Mizuno Yoshifumi	4. 巻 60
2. 論文標題 Effects of prenatal cannabis exposure on developmental trajectory of cognitive ability and brain volumes in the adolescent brain cognitive development (ABCD) study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Developmental Cognitive Neuroscience	6. 最初と最後の頁 101209 ~ 101209
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.dcn.2023.101209	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hamatani Sayo, Hiraoka Daiki, Makita Kai, Tomoda Akemi, Mizuno Yoshifumi	4. 巻 12
2. 論文標題 Longitudinal impact of COVID-19 pandemic on mental health of children in the ABCD study cohort	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 19601
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-022-22694-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 濱谷沙世, 水野賀史	4. 巻 32
2. 論文標題 自閉スペクトラム症幼児の不安症に対して認知行動療法が有効性を示した1例	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 子どもの心とからだ	6. 最初と最後の頁 11-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hamatani Sayo, Matsumoto Kazuki, Ishibashi Tomoaki, Shibukawa Ryunosuke, Honda Yuki, Kosaka Hirota, Mizuno Yoshifumi, Andersson Gerhard	4. 巻 13
2. 論文標題 Development of a culturally adaptable internet-based cognitive behavioral therapy for Japanese women with bulimia nervosa	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychiatry	6. 最初と最後の頁 942936
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsy.2022.942936	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 松本一記, 濱谷沙世	4. 巻 48(7)
2. 論文標題 日本の遠隔認知行動療法	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 メディカル・サイエンス・ダイジェスト. 特集 遠隔診療の現状と未来	6. 最初と最後の頁 338-339
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsumoto Kazuki, Hamatani Sayo, Shimizu Eiji, Kall Anton, Andersson Gerhard	4. 巻 22
2. 論文標題 Impact of post-COVID conditions on mental health: a cross-sectional study in Japan and Sweden	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 BMC Psychiatry	6. 最初と最後の頁 237
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12888-022-03874-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Matsumoto Kazuki, Hamatani Sayo, Makino Takuya, Takahashi Jumpei, Suzuki Futoshi, Ida Tomoko, Hamamura Shoko, Takiguchi Shinichiro, Tomoda Akemi, Omori Ichiro M., Kosaka Hiroataka, Shinno Seina, Ikai Tomoki, Hayashi Hiroyuki, Katayama Hiroto, Shiko Yuki, Ozawa Yoshihito, Kawasaki Yohei, Sutoh Chihiro, Shimizu Eiji	4. 巻 28
2. 論文標題 Guided internet-based cognitive behavioral therapy for obsessive-compulsive disorder: A multicenter randomized controlled trial in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Internet Interventions	6. 最初と最後の頁 100515 ~ 100515
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.invent.2022.100515	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hamatani Sayo, Matsumoto Kazuki, Takahashi Jumpei, Shiko Yuki, Ozawa Yoshihito, Niitsu Tomihisa, Hirano Yoshiyuki, Shimizu Eiji	4. 巻 27
2. 論文標題 Feasibility of guided internet-based cognitive behavioral therapy for patients with anorexia nervosa	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Internet Interventions	6. 最初と最後の頁 100504 ~ 100504
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.invent.2022.100504	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shirayama Yukihiro, Matsumoto Kazuki, Hamatani Sayo, Muneoka Katsumasa, Okada Akihiro, Sato Koichi	4. 巻 12
2. 論文標題 Associations among autistic traits, cognitive and affective empathy, and personality traits in adults with autism spectrum disorder and no intellectual disability	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 3125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-022-07101-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本一記, 濱谷沙世, 清水栄司, 佐藤康一	4. 巻 15(1)
2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症パンデミックでのパニック症の混合認知行動療法	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 認知療法研究	6. 最初と最後の頁 82-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsumoto Kazuki, Hamatani Sayo, Shimizu Eiji	4. 巻 23
2. 論文標題 Effectiveness of Videoconference-Delivered Cognitive Behavioral Therapy for Adults With Psychiatric Disorders: Systematic and Meta-Analytic Review	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Medical Internet Research	6. 最初と最後の頁 e31293 ~ e31293
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2196/31293	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 濱谷 沙世, 松本 一記	4. 巻 63(6)
2. 論文標題 【強迫についてあらためて考える】摂食障害における強迫	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神医学	6. 最初と最後の頁 905-912
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hamatani S, Hirano Y, Sugawara A, Isobe M, Kodama N, Yoshihara K, Moriguchi Y, Ando T, Endo Y, Takahashi J, Nohara N, Takamura T, Hori H, Noda T, Tose K, Watanabe K, Adachi H, Gondo M, Takakura S, Fukudo S, Shimizu E, Yoshiuchi K, Sato Y, Sekiguchi A.	4. 巻 11
2. 論文標題 Eating Disorder Neuroimaging Initiative (EDNI): a multicentre prospective cohort study protocol for elucidating the neural effects of cognitive-behavioural therapy for eating disorders	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e042685 ~ e042685
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2020-042685	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hamatani Sayo, Tsuchiyagaito Aki, Nihei Masato, Hayashi Yuta, Yoshida Tokiko, Takahashi Jumpei, Okawa Sho, Arai Honami, Nagaoka Maki, Matsumoto Kazuki, Shimizu Eiji, Hirano Yoshiyuki	4. 巻 20
2. 論文標題 Predictors of response to exposure and response prevention-based cognitive behavioral therapy for obsessive-compulsive disorder	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BMC Psychiatry	6. 最初と最後の頁 433, 1 ~ 8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12888-020-02841-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hamatani Sayo, Matsumoto Kazuki, Shirayama Yukihiko	4. 巻 13
2. 論文標題 Blended cognitive behavioural therapy for adolescents with panic disorder co-morbid with autism spectrum disorder: a case study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Cognitive Behaviour Therapist	6. 最初と最後の頁 e37, 1 ~ 13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S1754470X20000392	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kimura Yasuhiro, Hamatani Sayo, Matsumoto Kazuki, Shimizu Eiji	4. 巻 2020
2. 論文標題 Cognitive Behavioral Therapy for Three Patients with Bipolar II Disorder during Depressive Episodes	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Case Reports in Psychiatry	6. 最初と最後の頁 1 ~ 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1155/2020/3892024	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okawa Sho, Hamatani Sayo, Hayashi Yuta, Arai Honami, Nihei Masato, Yoshida Tokiko, Takahashi Jumpei, Shimizu Eiji, Hirano Yoshiyuki	4. 巻 Volume 16
2. 論文標題 Neuropsychological Comparison Between Patients with Social Anxiety and Healthy Controls: Weak Central Coherence and Visual Scanning Deficit	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Neuropsychiatric Disease and Treatment	6. 最初と最後の頁 2849 ~ 2855
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2147/NDT.S283950	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hamatani Sayo, Numata Noriko, Matsumoto Kazuki, Sutoh Chihiro, Ibuki Hanae, Oshiro Keiko, Tanaka Mari, Setsu Rikukage, Kawasaki Yohei, Hirano Yoshiyuki, Shimizu Eiji	4. 巻 3
2. 論文標題 Internet-Based Cognitive Behavioral Therapy via Videoconference for Patients With Bulimia Nervosa and Binge-Eating Disorder: Pilot Prospective Single-Arm Feasibility Trial	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 JMIR Formative Research	6. 最初と最後の頁 e15738 ~ e15738
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2196/15738	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsumoto Kazuki, Yoshida Tokiko, Hamatani Sayo, Sutoh Chihiro, Hirano Yoshiyuki, Shimizu Eiji	4. 巻 6
2. 論文標題 Prognosis Prediction Using Therapeutic Agreement of Video Conference Delivered Cognitive Behavioral Therapy: Retrospective Secondary Analysis of a Single-Arm Pilot Trial	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 JMIR Mental Health	6. 最初と最後の頁 e15747 ~ e15747
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2196/15747	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsumoto Kazuki, Sato Koichi, Hamatani Sayo, Shirayama Yukihiko, Shimizu Eiji	4. 巻 7
2. 論文標題 Cognitive behavioral therapy for postpartum panic disorder: a case series	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMC Psychology	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s40359-019-0330-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsumoto Kazuki, Hamatani Sayo, Nagai Kazue, Sutoh Chihiro, Nakagawa Akiko, Shimizu Eiji	4. 巻 7
2. 論文標題 Long-Term Effectiveness and Cost-Effectiveness of Videoconference-Delivered Cognitive Behavioral Therapy for Obsessive-Compulsive Disorder, Panic Disorder, and Social Anxiety Disorder in Japan: One-Year Follow-Up of the Single-Arm Trial (Preprint)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 JMIR Mental Health	6. 最初と最後の頁 e17157
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2196/17157	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsumoto Kazuki, Hamatani Sayo, Makino Takuya, Uemura Taku, Suzuki Futoshi, Shinno Seina, Ikai Tomoki, Hayashi Hiroyuki, Sutoh Chihiro, Shimizu Eiji	4. 巻 in press
2. 論文標題 Guided Internet-Based Cognitive Behavioral Therapy for Japanese Patients with Obsessive-Compulsive Disorder: A Protocol of the Randomized Controlled Trial (Preprint)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 JMIR Research Protocols	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上野一彦, 濱谷沙世.	4. 巻 1
2. 論文標題 東京都A区における特別支援教育12年の実践	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 LD DHD & ASD, 明治図書出版	6. 最初と最後の頁 42-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本一記, 清水栄司, 濱谷沙世, 関陽一, 吉野晃平, 白山幸彦, 佐藤康一	4. 巻 45(2)
2. 論文標題 パニック症と広場恐怖症が合併した嘔吐恐怖症に対する認知行動療法の一例報告 他者評価の調査 (世論調査) を取り入れた治療モデル。	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 認知行動療法研究	6. 最初と最後の頁 87 - 97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本 一記, 佐藤康一, 濱谷沙世, 吉野晃平, 白山幸彦, 清水栄司	4. 巻 第12(2)
2. 論文標題 強迫的反すう患者の侵入イメージへの介入.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 認知療法研究	6. 最初と最後の頁 152 - 159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本 一記, 濱谷沙世, 清水栄司, 吉野晃平, 白山幸彦, 佐藤康一	4. 巻 12(1)
2. 論文標題 強迫症の認知行動療法デジタル教材: ケースシリーズ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 不安症研究	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takeda T, Nakataki M, Ohta M, Hamatani S, Matsuura K, Yoshida R, Kameoka N, Tominaga T, Umehara H, Kinoshita M, Watanabe S, Numata S, Sumitani S, Ohmori T.	4. 巻 15
2. 論文標題 Negative and positive self-thought predict subjective QOL in people with schizophrenia	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Neuropsychiatric Disease and Treatment	6. 最初と最後の頁 293-301
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2147/NDT.S190381	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takeda T, Nakataki M, Ohta M, Hamatani S, Matsuura K, Ohmori T.	4. 巻 12
2. 論文標題 Effect of cognitive function on jumping to conclusion in patients with schizophrenia.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Schizophrenia research:Cognition	6. 最初と最後の頁 50-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.scog.2018.04.002.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kane C, Tomotake M, Hamatani S, Chiba S, Kameoka N, Watanabe S, Nakataki M, Numata S, Ohmori T.	4. 巻 15
2. 論文標題 Clinical factors influencing resilience in patients with anorexia nervosa	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Neuropsychiatric Disease and Treatment	6. 最初と最後の頁 391-395
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2147/NDT.S190725	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計26件(うち招待講演 0件/うち国際学会 5件)

1. 発表者名 濱谷沙世, 水野賀史
2. 発表標題 自閉スペクトラム症幼児の不安症に対して認知行動療法が有効性を示した一例.
3. 学会等名 第20回日本小児心身医学会東海北陸地方会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 神経性過食症に対するインターネット認知行動療法 の多機関ランダム化比較試験:プロトコル
2. 発表標題 濱谷沙世, 水野賀史
3. 学会等名 第25回日本摂食障害学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 濱谷沙世, 水野賀史
2. 発表標題 COVID-19パンデミック中におけるオンライン認知行動療法の活用 <東海北陸地方会 令和3年度推薦演題>
3. 学会等名 第40回日本小児心身医学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 濱谷沙世, 平岡大樹, 牧田快, 水野賀史
2. 発表標題 COVID-19パンデミックが子どものメンタルヘルスに及ぼす影響—大規模縦断データを用いた検討—
3. 学会等名 第64回日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 濱谷沙世
2. 発表標題 思春期の精神疾患に対する遠隔認知行動療法(企画シンポジウム4:ニューノーマル時代の心理社会的医療と教育)
3. 学会等名 第64回日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松本一記, 濱谷沙世, 高橋純平, 須藤千尋, 牧野拓也, 鈴木太, 小坂浩隆, 新野青那, 井階友貴, 林寛之, 友田明美, 清水栄司
2. 発表標題 通常治療と比較した強迫症のガイド付きインターネット認知行動療法の有効性: 多施設ランダム化比較試験
3. 学会等名 第14回日本不安症学会学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 濱谷沙世, 水野賀史
2. 発表標題 コロナ禍でのオンライン認知行動療法の活用について
3. 学会等名 第19回日本小児心身医学会東海北陸地方会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 濱谷 沙世, Andersson Gerhard, 松本 一記, 清水 栄司
2. 発表標題 北欧のインターネット認知行動療法から考える日本の認知行動療法全国均てん化
3. 学会等名 第18回日本うつ病学会総会/第21回日本認知療法・認知行動療法学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松本一記, 濱谷沙世, 清水栄司
2. 発表標題 社交不安症の認知行動療法モバイルアプリの開発
3. 学会等名 第13回日本不安症学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 新野青那, 松本一記, 濱谷沙世, 井階友貴, 林博之, 清水栄司
2. 発表標題 不安症（パニック症と社交不安症）のガイド付きインターネット認知行動療法：パイロット実用可能性試験
3. 学会等名 第13回日本不安症学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松本一記, 濱谷沙世, 清水栄司
2. 発表標題 システムティックレビューとメタ解析によるテレビ会議を用いた遠隔での認知行動療法の有効性検証
3. 学会等名 第20回日本認知療法・認知行動療法学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松本一記, 濱谷沙世, 木村康博, 横倉俊也
2. 発表標題 双極性障害に対する補助療法としての認知行動療法(自主企画シンポジウム)
3. 学会等名 日本認知・行動療法学会第46回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松本一記, 濱谷沙世, 牧野拓也, 鈴木太
2. 発表標題 強迫症の認知行動療法コピキタス社会(自主企画シンポジウム)
3. 学会等名 日本認知・行動療法学会第46回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hamatani S, Nihei M, Hayashi Y, Tsuchiyagaito A, Shimizu E, Nakagawa A, Hirano Y.
2. 発表標題 Correlations between the clinical profiles and the profile of the Wechsler Adult Intelligence Scale-III in obsessive-compulsive disorder.
3. 学会等名 9th World Congress of Behavioural and Cognitive Therapies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Okawa S, Hamatani S, Arai H, Nihei M, Yoshida T, Takahashi J, Hirano Y.
2. 発表標題 Comparison of neuropsychological function in social anxiety disorder and healthy controls.
3. 学会等名 9th World Congress of Behavioural and Cognitive Therapies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名	Matsumoto K, Nagai K, Hamatani S, Chihiro S, Otani T, Nakagawa A, Shimizu E.
2. 発表標題	One-Year Follow-Up of Internet-based Cognitive Behavioral Therapy Via Videoconferencing for Patients with Obsessive-Compulsive Disorder, Panic Disorder, and Social Anxiety Disorder.
3. 学会等名	9th World Congress of Behavioural and Cognitive Therapies (国際学会)
4. 発表年	2019年

1. 発表者名	濱谷沙世, 沼田 法子, 松本 一記, 須藤 千尋, 伊吹 英恵, 大城 恵子, 田中 麻里, 薛 陸景, 川崎洋平, 平野 好幸, 清水 栄司.
2. 発表標題	過食症へのテレビ電話による認知行動療法の単群実験.
3. 学会等名	第23回摂食障害学会
4. 発表年	2019年

1. 発表者名	松本一記, 大森露恵, 濱谷沙世, 林三千恵, 牧野拓也, 古川洋和.
2. 発表標題	新しい時代に活かすための強迫・パニック・社交不安に対する低強度の認知行動療法 (自主企画シンポジウム).
3. 学会等名	日本認知・行動療法学会第45回大会
4. 発表年	2019年

1. 発表者名	Hamatani S, Matsumoto K.
2. 発表標題	Successful cognitive behavioral therapy for obsessive compulsive disorder in an adolescent combined with generalized anxiety disorder: A case report.
3. 学会等名	ISAPP joint with 31st Annual Meeting of JSAP (国際学会)
4. 発表年	2018年

1. 発表者名 Matsumoto K, Hamatani S.
2. 発表標題 Effectiveness of Cognitive behavior therapy for specific phobia of vomiting with "catastrophic misunderstanding of body sensation": a case report.
3. 学会等名 ISAPP joint with 31st Annual Meeting of JSAP (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本一記, 清水栄司, 濱谷沙世, 吉野晃平, 白山幸彦, 佐藤康一.
2. 発表標題 「産後パニック症への認知行動療法の効果：2症例報告」.
3. 学会等名 第15回日本周産期メンタルヘルス学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 濱谷沙世, 沼田法子, 大城恵子, 伊吹英恵, 田中麻里, 薛陸景, 松本一記, 平野好幸, 清水栄司.
2. 発表標題 過食症へのテレビ電話による認知行動療法の単群試験.
3. 学会等名 第22回摂食障害学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 濱谷沙世, 平野好幸, 林佑太, 二瓶正登, 高橋純平, 清水栄司
2. 発表標題 社交不安症における認知行動療法の治療反応性への予測：中枢性統合の観点から
3. 学会等名 第45回日本脳科学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本一記, 佐藤康一, 濱谷沙世, 田口佳代子, 吉野晃平, 白山幸彦.
2. 発表標題 「加害恐怖から音楽プレーヤーを手放せない強迫性障害の男性」
3. 学会等名 第23回千葉総合病院精神科研究会「嗜癪とその周辺」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉田齋子, 松本一記, 濱谷沙世, 須藤千尋, 浅野憲一, 関陽一, 横尾瑞恵, 高梨利恵子, 大城恵子, 田中麻里, 野口玲美, 廣瀬素久, 永田忍, 沼田法子, 吉村健佑, 中川彰子, 清水栄司
2. 発表標題 テレビ会議システムによる強迫, 社交不安, パニックの遠隔認知行動療法の治療反応性と治療同盟の関連
3. 学会等名 日本認知・行動療法学会第44回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本一記, 濱谷沙世, 佐藤康一, 吉野晃平, 白山幸彦, 平野好幸, 清水栄司,
2. 発表標題 強迫症の認知行動療法マニュアルに基づくデジタル教材の有用性:3症例報告
3. 学会等名 第11回日本不安症学会学術大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------